

# 沖縄県立芸術大学・移動大学の実施に関する報告

柳悦州・波照間永吉・久万田晋

## はじめに

沖縄県立芸術大学附属研究所では、平成21年度より今年度まで、音楽学部、美術工芸学部の協力を得つつ、県内離島・僻地地域において計5回にわたって移動大学を実施してきた。その目的は、本学の芸術文化に関する教育研究蓄積を駆使した移動大学を県内各地域で開催することによって、本学の活動内容を広く県民に認知してもらい、さらに本学教員のもつ教育研究のノウハウを県民に還元し、当該地域文化の活性化に貢献するというものである。

ここでは、平成21年度～平成24年度の全5回にわたる移動大学の実施の概要と総括を整理することで、今後の本大学の地域貢献の方向性に関する議論の材料としたい。

## 1. 第1回 西表島・第2回国頭村奥

### (1)概要

平成21年度には、沖縄県立芸術大学教育研究支援資金の助成を受け、第1回移動大学を平成21年11月28日(土)～29日(日)の二日間、竹富町立大原小学校において実施した。また、第2回移動大学を国頭村立奥小学校・国頭村奥公民館にて平成22年2月21日(日)に実施した<sup>1</sup>。

第1回移動大学(西表島)の参加教員は13名(含非常勤4名)、参加学生1名、延べ参加者数は374名、第2回移動大学(奥集落)の参加教員は10名(含非常勤3名)、参加学生23名、延べ参加者数は169名であった。

### (2)準備段階

#### A 第1回西表島大原

平成21年7月10日研究所教授会にて開催地域(西表島)、開催日(11月28、29日)を決定した。8月14日波照間教授、竹富町教育委員会を訪問し、担当者と調

整を行った。9月11日、附属研究所教授会にてプログラム内容の概要を決定した。9月18日、西洋音楽講師を決定。同日、波照間教授が竹富町教育委員会を訪問しプログラム案を提示した。9月28日、波照間教授、竹富町教育委員会にてマスコミ4社（八重山毎日新聞、八重山日報、琉球新報、沖縄タイムス）に記者会見開催。11月10～11日、柳所長、波照間教授が大原小学校を訪問し、会場予定教室を下見した。11月16日琉球音楽レクチャーコンサート舞踊講演プログラムが決定する。11月17日西洋音楽レクチャーコンサートプログラムが決定した。11月28～29日、第1回移動大学を竹富町立大原小学校において実施した（表1、2参照）。

## B 第2回国頭村奥集落

平成21年9月11日附属研究所教授会にて開催地域（奥集落）、開催日（2月21日）を決定した。10月31日波照間教授が国頭村教育委員会を訪問し、移動大学の計画概要を説明した。12月9日、波照間教授が国頭村教育委員会を訪問し、担当者と協議を行った。1月20日柳所長、波照間教授が国頭村教育委員会と奥小学校を訪問し、使用予定教室を視察した。2月21日第2回移動大学を国頭村立奥小学校にて実施した（表3、4参照）。

(3)実施内容

第1回移動大学（西表島）のプログラム一覧表を以下に掲載する。

表1 第1回移動大学（西表島）プログラム

11月28日（土）～29日（日） 会場：大原小学校

講座名	講師	内容	場所	日時	対象	受講者数	備考
1 絵画教室	西村立子	楽しい絵手紙を書いてみる。	図工教室	11/28午後	小学生未満と保護者	10組	
				11/29午前 午後	小学生以上	10人	
2 野焼教室	島袋常秀	土で自由にかたちを作り、窯を使わず、野外で野焼きをして、土器を作る。	学校敷地内	11/28午後 11/29	小学生以上	15人	1日目 かたち作り 2日目 野焼
3 粘土アニメ教室	仲本 賢	粘土でかたちを作り、少しずつかたちを変えながら撮影し、パソコンで編集しビデオ・アニメーションに仕上げる。	普通教室	11/28午後	小学生以上	3組	3人1組
				11/29午前	小学生以上	3組	3人1組
				11/29午後	小学生以上	3組	3人1組
4 織遊び教室	柳 悦州	機を使わずに、柱と自分のベルトの間で、テープ状の織物を織る。	普通教室	11/28午後 11/29	小学4年生以上	10人	
5 琉球舞踊 ワークショップ	比嘉いずみ	琉球舞踊初心者を対象に、琉球舞踊の基礎から体験する。	体育館	11/28午後	小学生以上	20人	初心者対象 動きやすい服装で、くつ下もしくは足袋持参
				11/29午後	小学生以上	20人	
6 三線 ワークショップ	比嘉康春 仲嶺伸吾	三線初心者を対象に、三線の持ち方、構え方に始まり、演習曲「安波節」を弾いて歌ってみる。	普通教室	11/28午後	小学生以上	10人	初心者対象 三線を持参できる方
				11/29午後	小学生以上	5人	
7 声楽 ワークショップ	桑江律子	一般の方々が歌を歌うときの基本的な呼吸法や発声法について、ボイストレーニングを行う。	音楽室	11/29午後	小学生以上	20人	
8 西洋音楽 レクチャーコンサート	大城了子 山里郁子 桑江律子	西洋音楽についてのレクチャーとミニコンサートを行う。	体育館	11/28夜	制限なし	制限なし	
9 琉球音楽 レクチャーコンサート	比嘉康春 仲嶺伸吾	琉球音楽についてのレクチャーとミニコンサートを行う。	体育館	11/28夜	制限なし	制限なし	
10 琉球舞踊公演	比嘉いずみ 仲嶺伸吾	八重山の方々をゲストに、琉球舞踊公演を行う。	体育館	11/29夜	制限なし	制限なし	賛助出演： 大底朝斐八重山古典民謡研究所/ 宇根由基子八重山舞踊研究所

次に、第1回移動大学（西表島）の受講者・参加者集計表を以下に掲載する。

表2 第1回移動大学（西表島）受講者・参加者集計表

平成21年11月29日（日）最終集計

	講座名		応募人数	申込人数	28日受講	29日受講	延べ人数	備考
1	絵画	28日	20	11	7		7	10組
	絵画	29日	10	19		16	16	10人
2	野焼き	28・29日	15	26	8	16	24	15人
3	粘土アニメ	28日	9	2	2		2	3組
	粘土アニメ	29日	9	9		5	5	3組
	粘土アニメ	29日	9	8		5	5	3組
4	織り遊び	28・29日	10	21	11	6	17	10人
5	琉球舞踊	28日	20	4	4		4	20人
	琉球舞踊	29日	20	13		13	13	20人
6	三線	28日	10	13	8		8	10人
	三線	29日	5	2		2	2	5人
7	声楽	29日	20	22		21	21	20人
8	レクチャー コンサート	28日					100	
9	琉球・八重山 舞踊公演	29日					150	
	計		157	150	40	84	374	

続いて、第2回移動大学（奥）のプログラム内容一覧表を掲載する。

表3 第2回移動大学（奥）プログラム

平成22年2月21日（日）会場：奥小学校

	講座名	講師	場所	時間	対象者	受講者定員	内容	備考
1	絵画教室	西村立子	奥小学校 理科室	10時-12時	小学生以上	10名	自分の描きたいものをモチーフにし、オリジナルの楽しい絵手紙を描いてみる	モチーフ、描く道具（絵の具等）、手ふき用タオルを持参
				13時-16時	小学生以上	10名		
2	陶芸教室	島袋常秀 (田中章子)	奥小学校 体育館	10時-12時 13時-16時	小学生以上	15名	土でシーサーの顔を作る。県立芸大で焼き、1週間後に作者にお返しする	手ふき用タオルを持参
3	粘土アニメ教室	仲本 賢 (又吉 浩)	奥小学校 教育相談室	10時-12時	小学生以上	3名1組で 3組	粘土でかたちを作り、少しずつかたちを変えながら撮影し、ビデオアニメーションに仕上げる	
				13時-16時	小学生以上	3名1組で 3組		

	講座名	講師	場所	時間	対象者	受講者定員	内容	備考
4	織遊び教室	柳悦州	奥小学校 家庭科室	10時-12時、 13時-16時	小学5年生 以上	8名	機を使わずに、柱 と自分のベルトの 間で、テープ状の 織物を織る	
5	名作鑑賞 教室	喜屋武盛也	奥小学校 体育館	13時-14時	小学生以上	30名	スクリーンに映し 出された芸術作品 を楽しみながら鑑 賞する	
6	琉球舞踊 ワークショップ	鳥袋君子	奥小学校 体育館	10時-12時	小学生以上	10名	琉球舞踊初心者 を対象に、琉球舞 踊を基礎から体験 する	動きやすい服装で。 靴下または足袋を 持参
7	三線 ワークショップ	比嘉康春	奥公民館	10時-12時	小学生以上	10名	三線に興味のある 方を対象に、持ち 方、構え方の基礎 に始まり、演習曲 を弾いて歌ってみ る	三線を持参
8	琉球芸能公演	県立芸大琉 球芸能専攻 教員、学生	奥公民館	17時-19時	制限なし	制限なし	本学琉球芸能専攻 教員、学生による 琉球芸能公演	入場無料

続いて、第2回移動大学（奥）の受講者・参加者集計表を以下に掲載する。

表4 第2回移動大学（奥）受講者・参加者集計表

平成22年2月21日（日）会場：奥小学校

	講座名	開始時間	募集人数	申込人数	受講者
1	絵画教室	10時	10	1	6
	絵画教室	13時	10	0	0
2	陶芸教室	10時	15	7	8
3	粘土アニメ教室	10時	9	9	9
	粘土アニメ教室	13時	9	0	3
4	織遊び	10時	8	1	6
5	名作鑑賞教室	13時	30	0	10
6	三線ワークショップ	10時	10	1	3
7	琉球舞踊ワークショップ	10時	10	0	4
	講座受講者計		111	19	49
8	琉球芸能公演	17時			120
	移動大学参加者合計				169

#### (4)総括

本プロジェクトの目的は、本学の芸術文化に関する教育研究蓄積を利用した移

動大学を県内各地域で開催することによって、本学の活動内容を広く県民に認知してもらい、さらに本学教員のもつ教育研究のノウハウを県民に還元し、当該地域文化の活性化に貢献するというものであった。今回の2回（西表島、国頭村奥）にわたる移動大学の実施によってその目的を達成するための手応えは十分に得られたといえることができる。

二回にわたる移動大学の参加者アンケートからもうかがえる通り、今回のような県内離島地域や遠隔地域の県民からは、本学教員による講座やワークショップを通じた、本学の有する芸術文化に関する教育研究蓄積に対して、一般県民はたいへん高い期待と関心を抱いていることを参加教員一同強く実感した。その意味では、今回は限定された二地点における試みではあったものの、次年度以降、県内各地で移動大学を継続開催してゆくことに対する県民からの熱い期待と社会的意義があることを強く認識できたことが、本プロジェクトの大きな成果であった。

今回の移動大学参加者の延べ人数は、第1回西表島（2日間）が374名、第2回奥集落（1日間）が169名という数字であった。これは、第1回・第2回それぞれ本学教員（助手、非常勤講師も含めて）が20名近く参加して実施した成果としては、かならずしも大きな数字ではないかもしれない。しかしこの2回の移動大学について、県内新聞紙上（含八重山地方紙）で幾度も大きく報道されたこと、さらに当該地域においては参加しなかった人々の間にまで、「県立芸大がやってきた！」と広く話題にされたことは、本学の果たすべき地域貢献という社会的使命から鑑みて、たいへん重要な成果である。こうして沖縄の県立大学として、県内遠隔地（離島を含む）での地域活性化に積極的に取り組む姿を多くの県民にアピールしたという意味では、極めて大きな宣伝効果をあげた取り組みであったと自己評価できる。

今回の移動大学実施を振り返って、今後の継続的な開催のために必要な条件を考えると、まずなによりも実施する現地側との密接な協力関係が不可欠であるといえることがある。今回（平成21年度）は、2回の移動大学の実施にあたって竹富町教育委員会、国頭村教育委員会と相互に連絡を取り合い、実施にあたっての様々な支援・協力を依頼した。第1回西表島については、比較的早期から竹富町教育委員会と連絡を取り合ったことにより、手厚い協力を得られ、準備段階から本番を通じてたいへん円滑に実施することができた。第2回奥については、本学から



写真1 第1回（西表島）開校式



写真2 第1回（西表島）野焼き教室



写真3 第1回（西表島）西洋音楽レクチャーコンサート



写真4 第2回（奥）粘土アニメ教室



写真5 第2回（奥）織遊び教室



写真6 第2回（奥）琉球芸能公演

国頭村教育委員会への打診の時期がかなり遅れ、しかも当初予定していた実施時期が国頭村内の諸行事と重なっていたということもあり、会場とした奥小学校教室の使用管理面などいくつかの点において実施上の困難が生じたことは反省点として今後再検討しなければならない。ともかく、移動大学の円滑な実施運営にあたっては、まず日程的に余裕を持って現地側と十分な協力関係を築くことが何よりも重要であるという認識を得られたという点で、本プロジェクトは今後の移動大学の継続的開催に向けて、大きな成果を得られたものと考えている。

## 2. 第3回 与那国町「沖縄県立芸術大学移動大学 IN どうなん」

### (1)概要

平成22年度には、(社)沖縄県対米請求権事業助成金、沖縄県立芸術大学教育研究支援資金の助成を受け、第3回移動大学を平成22年12月23日(木)～26日(日)の四日間、与那国町立与那国小学校において実施した<sup>2</sup>。

今年度の移動大学の参加教員247名(含非常勤7名)、学生24名、事務スタッフ4名であった。移動大学の延べ参加者数は昼間の教室が498名、24日夜の西洋音楽コンサート92名、26日夜の琉球芸能公演200名、総計790名であった。

### (2)準備段階

平成22年3月には、移動大学の内容についての検討と準備を始め、3月28日には波照間教授が与那国町教育委員会を訪問、交渉と調整を行った。5月9日には与那国町教育長が学長を表敬訪問した。5月17日には柳所長、波照間教授、上原(事務)で与那国町役場を訪問、会場予定の与那国小学校を視察した。9月16日附属研究所教授会に、本年度移動大学のプログラム概要を提示した。10月27日には学内教育研究支援資金の申請書を提出した。10月31日には県立芸大学長室にて移動大学についての記者会見発表を行った。11月17日には八重山教育事務所にて記者会見発表を行った(波照間教授、崎原与那国町教育長、大浜八重山教育事務所長)。12月8日には琉球芸能公演のプログラムが決定した。12月20日には、西洋音楽コンサートのプログラムが決定した。12月22日スタッフ第一陣が与那国町入りし開講に備えた。12月23日にはスタッフ第二陣が与那国町入りし、23日から26日(日)に、第3回移動大学を与那国小学校にて実施した(表5、6参照)。



(3)実施

第3回移動大学（与那国町）のプログラム内容を以下に示す。

表5 沖縄県立芸術大学移動大学 IN どうなん 開催プログラム

平成22年12月23日（木）～26日（日） 会場：与那国小学校

No	講座名	日程	講師	受講者定員	対象者	内容	備考
1	野焼教室 (全4回)	A, D, E, J	島袋常秀	20名	小・中・高生、 学生、一般	土でかたちを作り、窯を使わず野外で野焼をして土器を作る全工程を学ぶ。	日程Aかたち作り、日程Bかたち作り、日程E窯作り・焼成、日程J夕方窯だし
2	土器制作教室 (全2回)	A, D		20名	小・中・高生、 学生、一般	土でかたちを作る。焼きは「野焼教室」におまかせする。	
3	織遊び教室 (全4回)	A, D, E, H	柳悦州	10名	小学校4年生以上・中・高生、学生、一般	カード織りや腰機で細ひもを作ることで織物の基礎を学ぶ。	
4	織りひもと焼物を組み合わせた小物作り教室 (全2回)	F, G	柳悦州 田中章子	10名	小学校4年生以上・中・高生、学生、一般	織りひもと焼物を自分で作り、それらを組み合わせて携帯ストラップがループタイを作る。	
5	粘土アニメ教室	A	仲本賢	各教室3名 1組で3組 ずつ	小・中・高生	粘土でかたちを作り、少しずつかたちを変えながら撮影し、パソコンで編集し、ビデオ・アニメーションに仕上げる。	
6	粘土アニメ教室	D					
7	粘土アニメ教室	E					
8	粘土アニメ教室	H					
9	ポスターデザイン教室	A, D	松本由衣	10名ずつ	小学校4年生以上・中・高生、学生、一般	与那国島の「大事なもの」「面白いこと」「好きどころ」をアビールするポスターを写真と文字でデザインする。	持ち物：鉛筆、消しゴム、はさみ、デジタルカメラ、ポスターにしたい写真
10	ポスターデザイン教室	E, H					
11	声楽教室	E	桑江律子	20名ずつ	小・中・高生、 学生、一般	基本的な呼吸法や発声法について学びながら、簡単なイタリア民謡（カンツォーネ）を歌ってみましょう！	
12	声楽教室	H					
13	声楽教室	J					
14	フルート教室 (リコーダー可)	E	高橋真知子	4名	小・中・高生、 学生、一般	フルートまたはリコーダーの個人レッスン（1人30分程度）を行う	楽器は各自持参する。
15	木管アンサンブル教室	H		4～5名 1組で2組		木管アンサンブルのグループレッスン（1グループ45分程度）を行う	
16	三線教室	E	比嘉康春	10名ずつ	小・中・高生、 学生、一般	三線の持ち方、弾き方を初歩から指導し、親しみやすい「わらべ歌」などで簡単な三線伴奏ができるようにする	三線を各自持参する。
17	三線教室	F					
18	琉球舞踊教室	D	比嘉いずみ	10名ずつ	小・中・高生、 学生、一般	初心者を対象に、琉球舞踊を基礎から体験する	動きやすい服装で、靴下もしくは足袋を持参する。
19	琉球舞踊教室	E					
20	空手教室 (全4回)	A, D, E, H	佐久本嗣明	100名	児童、小・中・高生、学生、一般	初心者から中級者を対象に、座礼、基本、移動基本、基本形、約束組手を中心に行う	ジーンズはNG。運動ができるトレーニングウェアが空手着で参加のこと。

No	講座名	日程	講師	受講者定員	対象者	内容	備考
21	空手教室	F		100名			
22	空手道講話	B		制限なし	制限なし	演題「世界制覇への道-夢へのステップ・アップ」 実技も含めながら講義する	
23	芸術作品鑑賞教室	C	久万田 晋 尾形希和子	30名ずつ	小・中・高生、 学生、一般	スクリーンに映し出された芸術作品を 楽しみながら鑑賞する。前半30分 は音楽、後半30分は美術工芸について 講義する。	
24	芸術作品鑑賞教室	I					
25	ドゥナンズンカニ教室	D、G	玉城 孝	10名	小・中・高生、 学生、一般	ドゥナンズンカニは、与那国の情けを 詠い、鳥を代表する民謡として愛唱 されてきた。ドゥナンズンカニを正しく 継承しましょう。	琉芸学生約10名含む

#### 公演プログラム

1	西洋音楽コンサート	24日 19-21		制限なし	制限なし		
2	芸能公演	26日 19-22		制限なし	制限なし	与那国の芸能、空手演武、琉球芸能の 公演	

次に、受講者・参加者集計表を示す。

表6 沖縄県立芸術大学移動大学 IN どうなん 受講者集計表

平成22年12月27日集計

No	講座名	日程	募集人員	申込者数	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	延べ人数
1	野焼教室 (全4回)	A、D、E、J	20	17	15			16	15					14	60
2	土器制作教室 (全2回)	A、D	20	9	12			6							18
3	織遊び教室 (全4回)	A、D、E、H	10	6	6			7	9			9			31
4	織りひもと焼物を組み合わせた小物作り教室 (全2回)	F、G	10	11						10	10				20
5	粘土アニメ教室	A	3名1組を3組	8	8										8
6	粘土アニメ教室	D	3名1組を3組	2				3							3
7	粘土アニメ教室	E	3名1組を3組	13					16						16
8	粘土アニメ教室	H	3名1組を3組	19								21			21
9	ポスターデザイン教室	A、D	10	6	8			8							16
10	ポスターデザイン教室	E、H	10	6					6			9			15
11	声楽教室	E	20	8					4						4
12	声楽教室	H	20	5								9			9
13	声楽教室	J	20	11									9		9
14	フルーツ教室	E	4	3					3						3
15	木管アンサンブル教室	H	4～5名1組を2組	4								3			3
16	三線教室	E	10	5					8						8
17	三線教室	F	10	9						12					12
18	琉球舞踊教室	D	10	9				6							6
19	琉球舞踊教室	E	10	6					10						10

No	講座名	日程	募集人員	申込者数	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	延べ人数
20	空手教室 (全4回)	A、D、E、H	100	15	27			18	18			22			85
21	空手教室	F	100	29						42					42
22	空手道講話	B	制限なし			47									47
23	芸術作品鑑賞教室	C	30	3			6								6
24	芸術作品鑑賞教室	I	30	5									6		6
25	ドゥナンスカニ教室	D、F	10	12				23	17						40
	講座受講者計														498

	公演名															
1	西洋音楽コンサート	24日19時	制限なし													92
2	芸能公演	26日18時30分	制限なし													200
	公演来場者計															292

12月25日は「久部良中学校吹奏楽定期演奏会」に、高橋真知子教授がフルート演奏でゲスト出演した。

#### (4)総括

本プロジェクトの目的は、本学の芸術文化に関する教育研究蓄積を利用した移動大学を県内各地域で開催することによって、本学の活動内容を広く県民に認知してもらい、さらに本学教員のもつ教育研究のノウハウを県民に還元し、当該地域文化の活性化に貢献するというものであった。平成21年度（11月西表、2月奥）に加えて、今回の与那国島における移動大学の実施によって、その目的を達成するための手応えやデータは十分に得られたといえることができる。

移動大学の参加者アンケートからもうかがえる通り、今回のような県内離島地域や遠隔地域の県民からは、本学教員による講座やワークショップを通じた、本学の有する芸術文化に関する教育研究蓄積に対して、一般県民はたいへん高い期待と関心を抱いていることを、昨年度同様に確認することができた。その意味では、今回はかなり遠隔地（与那国島）における実施ではあったものの、平成23年度以降も県内各地で継続的に移動大学を継続開催してゆくことに対する県民からの熱い期待と社会的意義があることを強く認識できたことが、本プロジェクトの大きな成果であった。

今回の移動大学参加者の延べ人数は、昼間の教室が498名、24日の西洋音楽コンサートが92名、26日の芸能公演が200名の、総計790名という数字であった。これは、本学教員（助手、非常勤講師、学生も含めて）が50名超参加して実施した成果としては、かならずしも大きな数字ではないかもしれない。しかし、人口

2000人未満の与那国島における実施であること、この移動大学について、県内新聞紙上（含八重山地方紙）や各種メディア（テレビ、ラジオ）で幾度も大きく報道されたこと、さらに当該地域においては参加しなかった人々の間にまで、「県立芸大が与那国にやってきた！」と広く話題にされたことは、本学の果たすべき地域貢献という社会的使命から鑑みて、たいへん重要な成果である。こうして沖縄の県立大学として、昨年度に引き続いて県内遠隔地（離島を含む）での地域活性化に積極的に取り組む姿を多くの県民にアピールしたという意味では、極めて大きな宣伝効果をあげた取り組みであったと自己評価できる。

今回の移動大学実施を振り返って、平成23年度以降の継続的開催のために必要な条件を考えると、まずなによりも実施する現地側との密接な協力関係が不可欠



写真7 第3回（与那国）三線教室



写真8 第3回（与那国）ポスターデザイン教室



写真9 第3回（与那国）空手教室



写真10 第3回（与那国）芸能公演

であるということがある。今回（平成22年度）は、移動大学の実施について与那国町教育委員会と年度始めから相互に連絡を取り合い、実施にあたっての様々な支援・協力を得ることができ、準備段階から本番を通じてたいへん円滑に実施することができた。移動大学の円滑な実施運営にあたっては、まず日程的に余裕を持って現地側と十分な協力関係を築くことが何よりも重要であるという認識を昨年度に続いて得ることができた。その点で、本プロジェクトは今後の移動大学の継続的開催に向けて、また一つ大きな成果を得られたものと考えている。

今回は、4泊5日という日程となり、平成21年度（西表島、国頭村奥）に比べて規模が拡大して、その準備や事務的処理の仕事がさらに増大したことは事実である。今後、どの地域において、どの程度の日程・規模の移動大学がもっともふさわしいのかを、昨年度と今年度の経験から周到に検討してゆく必要がある。

さらに、今回参加した教員や受講者の間からは、専任教員や非常勤講師だけではなく、県立芸大の学生にももっと参加を呼びかけて地元の人々との交流を促進すべきとの意見が多数上がった。こうした地域貢献の場における地元の人々や地域文化との交流を通じた芸術教育として、この移動大学を本学の芸術教育システムに積極的に練り込んでゆくことも、今後の本学の重要な課題であると考えているものである。

### 3. 第4回 北大東村・南大東村「移動大学 IN 北大東島・南大東島」

#### (1)概要

平成23年度には、(社) 沖縄県対米請求権事業助成金、(財) 沖縄県立芸術大学芸術振興財団および沖縄県立芸術大学教育研究支援資金の助成を受け、第4回移動大学を平成23年9月17日(土)～19日(月)の三日間、北大東村立北大東小中学校、南大東村立南大東小中学校において実施した<sup>3</sup>。

移動大学北大東村への参加教員は9名(うち非常勤講師2人)、事務職員2人、参加学生18人(琉球芸能専攻)、移動大学南大東村への参加教員は10人(うち非常勤講師3人)、事務職員3人であった。延べ参加者数は北大東村が254人、南大東村が168人、計422人であった。

#### (2)準備

平成23年3月には、移動大学の内容についての検討と準備を始め、3月10日に

は波照間教授が南大東村教育委員会に赴き、交渉と調整を行った。5月31日には学内教育研究支援資金の申請書を提出した。6月24日には沖縄県対米請求権事業協会へ「平和芸術祭事業助成金概算払請求書」を提出した。7月8日附属研究所教授会には、本年度移動大学のプログラム、内容報告と各教員への協力要請を行った。7月25日には(社)沖縄県対米請求権事業協会より「平和芸術祭事業助成金決定通知」を受領した。8月1日には、(財)沖縄県立芸術大学芸術振興財団へ助成金を申請した。8月17、18日には柳所長、波照間教授、久万田教授が南北大東

表7 「沖縄県立芸術大学移動大学 IN 北大東島」  
時間割表

時間	9月18日(日)	9月19日(月)	
10:00	10:00-10:30 開校式	10:00-12:00 C	
11:00	10:30-12:30 A		
12:00	お昼休み	お昼休み	
13:00			
14:00	14:00-16:00 B	14:00-16:00 D	
15:00			
16:00			
17:00			
18:00			
19:00			16:30-16:50 閉講式
20:00			19:00-21:00 琉球芸能公演
21:00			

村を訪問し(17日南大東村、18日北大東村)地元側に予定プログラムの説明を行うと同時に、会場予定地である南大東小中学校、北大東村小中学校を視察した。7月19日には多良間村教育委員会へプログラムとスケジュール必要を提出した。8月22日には琉球芸能公演(北大東)、洋楽コンサート(南大東)のプログラムが確定した。8月26日には県立芸大学長室にて記者会見発表を行った。9月14日には南北大東島近海に台風15号が発生、移動大学実施への影響の検討を始めた。9月16日には予定通り実施することを決定した。9月17日午前には南大東島スタッフ、北大東島スタッフが予定通り現地入りし、開講に備えた。

(3)実施結果

まず、第4回移動大学（北大東島・南大東島）の時間割とプログラム表、受講者集計を以下に示す（表7、8、9参照）。

続いて、第4回移動大学（南大東島）の時間割表と開催プログラム、受講者集計を以下に示す（表10、11、12参照）。

表8 沖縄県立芸術大学移動大学 IN 北大東島 開催プログラム

平成23年9月18日（日）～19日（月） 会場：北大東小中学校

講座名	日程	講師	受講者定員	対象者	内容	備考
空手教室	A、D	豊見城あずさ	50名	制限なし	初心者から中級者を対象に、座礼、基本、移動基本、基本形、約束組手、形（二セーション）を中心に行う	ジーンズはNG。運動ができるトレーニングウェアが空手着で参加のこと。
琉球舞踊教室	B、C	島袋君子 松原純子	10名	小学生から大人まで	初心者を対象に、琉球舞踊を基礎から体験する	動きやすい服装で、靴下もしくは足袋を持参する。
織遊び教室 (全4回)	A、B、C、D (4回通しの受講)	神谷あかね 野本由布貴	10名	小学校4年生から大人まで	カード織りや腰機で細ひもを作ることで織物の基礎を学ぶ。	手拭きタオル。途中からの参加は、原則不可ですが、Bからの受講は可能です。
親子で楽しむ 版画教室	B、D	田中睦治 宮里秀和	各クラス 10組 (2名1組)	小学生から大人まで（小学生は親子での参加が望ましい）	鏡の上に画を描いて、紙を置き、すかし取るモノタイプ版画を楽しみます。いろいろな方法を学んで、世界に一つしかない版画をいっばい作ります	エプロン、タオル、汚れてもいい服装で来てください。
沖縄の笛教室	B、C	大湾清之	10名	小・中・高生、学生、一般	初心者を対象に、言の出し方から始め、簡単な沖縄のわらべ歌等を吹けるように指導します	
三線教室	B、C	新垣俊道	10名	小・中・高生、学生、一般	三線の持ち方、弾き方を初歩から指導し、親しみやすい「わらべ歌」や「童謡」などで簡単な三線伴奏ができるようにする。	
紙芝居とビデオで学ぶ「おきなわ」	A、D	波照間永吉	10名	幼稚園児から大人まで	沖縄の特色ある歴史と文化を紙芝居やビデオを利用して楽しみつつ学びます	
公演プログラム						
琉球芸能公演	19日19-21		制限なし	制限なし	本学学生18名による琉球芸能の公演	

公演プログラム

琉球芸能公演	19日19-21		制限なし	制限なし	本学学生18名による琉球芸能の公演
--------	----------	--	------	------	-------------------

表9 沖縄県立芸術大学移動大学 IN 北大東島 受講者集計表

No	講座名	日程	募集人員	申込者数	A	B	C	D	延べ人数
1	親子で楽しむ版画教室	B	2名1組を10組	8			5		5
2	親子で楽しむ版画教室	D	2名1組を10組	14				12	12
3	三線教室 1組	B	10	10					
	三線教室 2組	B	10	7					

No	講座名	日 程	募集人員	申込者数	A	B	C	D	延べ 入数
4	三線教室 1組	C	10	10			7		7
	三線教室 2組	C	10	6			4		4
5	沖縄の笛教室	B	10	11			7		7
6	沖縄の笛教室	C	10	12				5	5
7	琉球舞踊教室	B	10	10					
8	琉球舞踊教室	C	10	10			10		10
9	空手教室	A	50	47			11		11
10	空手教室	D	50	45				21	21
11	紙芝居とビデオで学ぶ “おきなわ” 教室	A	10	7			3		3
12	紙芝居とビデオで学ぶ “おきなわ” 教室	D	10	4				6	6
13	織遊び教室 (全4回)	A、B、C、D	10	9			9	9	13
	講座受講者計								104

	公演名								
1	琉球芸能公演	19日19時	制限なし						150
	(大東太鼓、豊見城あずささん空手演武あり)								
	移動大学参加者合計								254

□枠は、台風の為休講。

### (3)総括

今回の移動大学の総括としては、第一に南・北大東島において同時期に別々に移動大学を実施したことにより、実質的には移動大学二回分に等しい人的・予算的負担が生じたことが挙げられる。個々の島における規模としては昨年度の第3回(与那国島)よりかなりコンパクトであったが、全体としては二ヶ所同時開催に向けての準備段階から本番まで、かなりの労力を必要としたことは、今後の検討課題として指摘しておかなければならない。

第二に、本番三日前に発生した台風15号によって、実施計画に大きな変更を余儀なくされることとなった。刻々と変わる台風の状況で、一時は実施中止をも検討したが、慎重な協議の結果、実施へと踏み切った。結果的には台風の停滞により、本来の計画していた日程の半分程度しか実施できなかった。しかし地元の方々からは、例年台風等により夏期の催し物の中止・延期が多い中、半分の日程とはいえ本学が移動大学を実施したことに対して大きな反響と評価をいただいた。今回は幸運にも台風のなか実施することができたが、今後は当該地域の年間行事予



定に照らして実施時期を地元側と慎重に調整することの必要性を認識させられた。そして参加する教員（専任・非常勤）、学生、現地参加者の安全をいかに確保するかも、今後検討してゆくべき課題として強く認識させられた。

参加者の延べ人数は、北大東島での教室受講者計104人、琉球芸能公演参加者150人の合計254、南大東島での教室受講者計83人、洋楽レクチャーコンサート参加者計85人の合計168人、南北合わせる

と参加者総計は422人にのぼった。この数字は、人口が2100人程度（北約700人、南約1400人）の南北大東島で、台風15号最中での開催ということを考えると大きな成果であったといえる。また、この移動大学について、県内新聞紙上や各種メディア（テレビ、ラジオ）で幾度も大きく報道されたこと、さらに当該地域においては参加しなかった人々の間にまで、「県立芸大が南北大東島にやってきた！」と広く話題にされたことは、本学の果たすべき地域貢献という社会的使命に鑑みると、たいへん重要な成果である。こうして沖縄の県立大学として、一昨年度、昨年度に引き続いて県内遠隔地での地域活性化に積極的に取り組む姿を多くの県民にアピールしたという意味では、極めて大きな宣伝効果をあげた取り組みであったと自己評価できる。

表10 沖縄県立芸術大学移動大学 IN 南大東島 時間割表

時間	9月17日(土)	9月18日(日)	9月19日(月)
10:00			
11:00		10:00-12:00 B	10:00-12:00 D
12:00	お昼休み		
13:00		13:00-14:00 F	13:00-14:00 G
14:00	13:30-14:30 開講式		
15:00	14:30-16:30 A	14:00-16:00 C	14:00-16:00 E
16:00			
17:00			開講式 17:30-17:45
18:00			18:00-20:00 洋楽レクチャーコンサート
19:00			
20:00			
21:00			

表11 沖縄県立芸術大学移動大学 IN 南大東島 開催プログラム

平成23年9月17日(土)～18日(日) 会場：南大東小学校

No	講座名	日程	講師	受講者定員	対象者	内容	備考
	声楽教室	A	豊田喜代美 山内昌也	20名ずつ	小学生から 大人まで	基本的な呼吸法や発声法の レクチャー。	運動に適した服装
1	声楽教室	B				簡単なイタリア民謡(カン ツォーネ)の歌唱指導。	
	声楽教室	D				日本語の歌の歌唱指導。	
2	器楽教室	A、B	宇佐美俊剛 宇江喜ゆり	10名	小学生から 大人まで	ピアノ、リコーダーなど の基礎的な演奏法を学び ます	楽器は各自持参する。
3	芸術(音楽) 鑑賞教室	F、G	久万田 晋	10名	小学生から 大人まで	音楽や美術作品を鑑賞し、 鑑賞の楽しみを学ぶ(60 分)	
4	染色教室	A、B、C、D (4回通しの 受講)	名護朝和 宇良京子	10名	小学校4年生 から大人まで	紅型の技法を用いて基礎 的な模様や染色工程を学 び、南大東島をテーマに 手ぬぐいを染めます	筆記用具 (鉛筆、消しゴム)
5	七輪陶芸教室 (全4回)	A、B、C、E (4回通しの 受講)	山田 聡 阪田真梨子	10名	小学校4年生 から大人まで (小学生は保護 者同伴)	魚を焼く七輪を使って、 簡単な器や小さな置物の 焼物を作る	途中からの参加は、原則 不可ですが、Bからの受講 は可能です。
6	空手教室	B、E	盧 姜威	特に制限 なし	特に制限なし	基本を中心に行う	ジーンズはNG。動きやす い服装(トレーニングウ ェア)が空手着
7	織遊び教室 (全4回)	A、B、C、D (4回通しの 受講)	柳 悦州	7名	小学校4年生 から大人まで	カード織りや腰機で細ひ もを作ることで織物の基 礎を学ぶ。	手拭きタオル 途中からの参加は、原則 不可ですが、Bからの受講 は可能です。

公演プログラム

1	洋楽レクチャー コンサート	19日19-21時		制限なし	制限なし	本学教員による西洋音楽 公演	
---	------------------	-----------	--	------	------	-------------------	--

粘土アニメ教室は、台風により講師日程調整が不可のため中止となった。

今回の移動大学実施を振り返って、今後の継続的開催のための条件を考えると、まずなによりも実施する現地側との開催時期の決定を含めた密接な協力体制の構築が不可欠であるということがある。今回(平成23年度)は、移動大学の実施について北大東村、南大東村の各教育委員会と年度始めから相互に連絡を取り合い、様々な支援と協力を得ることができた。準備段階から本番に至る期間、台風への対応を含めてたいへん円滑に実施することができた。移動大学の円滑な実施運営にあたっては、まず日程的に余裕を持って現地側と十分な協力関係を築くことが何よりも重要であるという認識を一昨年度、昨年度に続いて得たのである。

今回は、南・北大東島での同時期開催ということで、平成21年度(西表島、国頭村奥)、22年度(与那国島)に比べて全体的規模がさらに拡大した。今後、どの地域において、どの程度の日程・規模の移動大学がもっともふさわしいのかを、これまで以上に周到に検討してゆく必要がある。

表12 沖縄県立芸術大学移動大学 IN 南大東島 受講者集計表

No	講座名	日程	募集人員	申込数	A	B	C	D	E	F	G	延べ 人数
1	声楽教室	A	20	7	7							7
2	声楽教室	B	20	4								
3	声楽教室	D	20	8							5	5
4	器楽教室	A	10	4	2							2
5	器楽教室 (吹奏楽指導)	B	10	2					14			14
6	芸術 (音楽) 鑑賞教室	F	10	4								
7	芸術 (音楽) 鑑賞教室	G	10	2							7	7
8	粘土アニメ教室	B	3名1組	8								
9	粘土アニメ教室	C		6								
10	粘土アニメ教室	D		3								
11	空手教室	B	制限なし	19								
12	空手教室	E	制限なし	21					15			15
13	染色教室 (全4回)	A、B、C、D	10	11	4				8			12
14	七輪陶芸教室 (全4回)	A、B、C、E	10	9	4				6			10
15	織遊び教室 (全4回)	A、B、C、D	7	9	4				7			11
	講座受講者計											83

	公演名											
1	洋楽レクチャーコンサート	19日19時	制限なし									85
	移動大学参加者合計											168

□枠は、台風の為休講。

粘土アニメ教室については、担当講師が日程調整が不可のため中止となった。

さらに、今回は参加した教員、学生（琉球芸能専攻）、受講者の間からは、県立芸大の学生にももっと参加を呼びかけて地元の人々との交流を促進すべきとの意見がこれまで以上に多く上がった。地域と本学との相互交流を通じた芸術教育の場として、移動大学を本学の教育システムに積極的に繰り込み、地域貢献の大きな柱として位置づけてゆくことが本学の今後の重要な課題であると考えられる。



写真11 第4回（北大東島）親子で楽しむ版画教室



写真12 第4回（北大東島）空手教室



写真13 第4回（北大東島）琉球芸能公演



写真14 第4回（南大東島）七輪陶芸教室



写真15 第4回（南大東島）器楽教室



写真16 第4回（南大東島）洋楽レクチャーコンサート

## 4. 第5回 多良間村「沖縄県立芸術大学移動大学 in たらま」

### (1)概要

平成24年度には、沖縄県立芸術大学教育研究支援資金支援資金の助成を受け、第4回移動大学を平成24年11月17日（土）～18日（日）の二日間、多良間村立小中学校に置いて実施した<sup>4</sup>。

移動大学への参加教員は8人（うち非常勤講師3人）、附属研究所共同研究員1人、事務職員3人、学生15人（うち大学院生4人）であった。延べ参加者数は北大東村が254人、南大東村が168人、計422人であった。

### (2)準備

平成24年3月には、移動大学の内容についての検討と準備を始め、4月11日には波照間教授が多良間村役場に赴き、交渉・調整を行った。4月19日には学内教育研究支援資金の申請書を提出した。6月8日の附属研究所教授会には、本年度移動大学の概算表と計画案を提出した。6月26日には、柳所長、波照間教授が多良間村役場を訪問し地元側に予定プログラムの説明を行うと同時に、会場予定地である多良間小中学校を視察した。7月19日には多良間村教育委員会へプログラムとスケジュール必要を提出した。10月12日には琉球芸能公演のプログラムが確定した。10月22日県立芸大学長室にて記者会見発表を行った。11月17日午前には現地入りし、開講に備えた。17日午後、18日の2日間、多良間小中学校において移動大学を実施した。

### (3)実施結果

第5回移動大学（多良間村）の時間割表とプログラム受講者集計表を以下に示す（表13、14、15参照）。

### (4)総括

今回の移動大学の総括として、第一に、開催プログラムを見直し、さまざまな教室を受講生が受講可能なよう、同じ内容の教室を複数回開催した。受講生アンケートの参加教室の回答から、2種類以上の教室を受講していることがわかる。記述アンケートの結果からも、受講生は数多くの教室に参加したいことが読み取れる。複数教室を受講できるプログラムの工夫を行い、その工夫が反映されたアンケート結果と理解できる。

第二には、日程と協力体制の重要性である。今回の移動大学は、2012年11月17

～18日という日程であった。開催地である多良間島の日程を最優先とした結果であったが、本学音楽芸術研究科入試試験日と重複してしまい、音楽学部所属教員の参加が不可能となってしまったことがたいへん残念であった。音楽系教室の講師は、本学非常勤講師等や、附属研究所共同研究員を派遣したため内容的には充実させることができた。しかし全学的な体制とならず、開催地側と本学の日程調整が必要であることが再認識させられた。開催地である多良間島村長はじめ教育委員会の協力体制は万全であり、細かな配慮をしていただいた。改めて、開催地との連携と協力体制の重要性が確認できた。

運営の面では、附属研究所に平成24年度6月より補助嘱託員に加え賃金職員が加わったことにより、業務を分担して行えるようになったことが改善点としてあげられる。本年度、本学から派遣した教職員および学生は27名であった。運営スタッフの業務内容は多岐にわたり業務量も多い。移動大学の開始当初からの懸案事項であった運営スタッフの二人体制化が実現したことは、本学の地域貢献事業として移動大学が重要な位置を占めていることが認知された結果であると認識している。経費面では、附属研究所が準備していた移動大学用の自己資金と本学教

表13 沖縄県立芸術大学移動大学 IN たらま 時間割

時間	11月17日 (土)	11月18日 (日)
10:00	10:20 多良間着	10:00-11:30 C
11:00	準備設営	お昼
12:00	お昼	
13:00	13:00 開講式	
14:00	13:30-15:00 A	13:30-15:00 D
15:00		
16:00	15:30-17:00 B	15:30-17:00 E
17:00		17:30 閉講式
18:00		
19:00	18:30-20:30 多良間村伝統芸能 琉球芸能公演	
20:00		
21:00		

スケジュールの詳細については、配布した担当別スケジュール表をご確認下さい。

表14 沖縄県立芸術大学移動大学 IN たらま 開催プログラム

平成24年11月17日（土）～18日（日） 会場：多良間小学校

No	講座名	日程	講師	受講者定員	対象者	内容	備考
1	織遊び教室 (全2回)	A・B、D・E	柳 悦州 崎原克友	10名	小学校4年生 以上・中、一 般	カード織りの細ひもを 作ることので織物の基礎を学 ぶ。	手拭きタオル。2回連続 受講。作品作りに時間を 要する。
2	沖縄文化講座	C、D	波照間永吉	50名	制限なし	沖縄の特色ある歴史と文 化を紙芝居やビデオを観 ながら楽しみつつ学ぶ。	
3	琉球舞踊教室	A、B、C	上地亜矢乃 金城小百合	10名	小・中、一般	初心者を対象に、琉球舞 踊を基礎から体験する。	動きやすい服装で靴下、 または足袋を持参
4	三線教室	A、B、C、D	池原雅人 仲尾勝成	10名	小・中、一般	三線の持ち方、弾き方を 初歩から指導し、親しみ やすい「わらべ歌」など で簡単な三線伴奏ができ るようにする。	三線を持参
5	絵画教室 ～宝物をつく ろう～	A、C、E	平山英樹	10名	小・中、一般 (小学校低学年、 中学年は要付 添)	自然の素材(貝殻、石、 枝など)を使って絵画作品 をつくる。	持てる範囲での貝殻、石、 小枝など
6	粘土アニメ 教室(全2回)	A・B、D・E	仲本 賢 又吉 浩	9名	小・中、一般	粘土でかたちを作り、少 しずつかたちを変えなが ら撮影し、パソコンで編 集し、ビデオ・アニメー ションに仕上げる。	各教室3名1組で3組ず つ
7	沖縄の笛教室	B、C、E	清村まり子	10名	小・中、一般	初心者を対象に、音の出 し方から始め、簡単な沖 縄のわらべ歌等を吹ける ように指導します	

公演プログラム

1	多良間村伝統 芸能 琉球芸能公演	17日 18:30-20:30		制限なし	制限なし	多良間村の児童生徒によ る伝統芸能公演、本学学 生による琉球芸能公演	
---	------------------------	--------------------	--	------	------	--	--

育研究支援資金では当初計画した規模の事業が行えず、計画の縮小、さらに不足分の費用弁償は附属研究所教員の研究旅費と交換するなどの必要があった。

今回の移動大学では、参加教員、参加者のアンケートに示されているように、双方ともに満足度が高い。沖縄県は島嶼県であり、県内遠隔地で行う移動大学は、沖縄県の特徴に則した地域貢献のあり方であり、参加者の満足度が高いことは、ニーズに適した内容に近づいているものと自己評価できる。また、教員や参加学生の満足度が高いことも特筆すべき点である。大学内での研究教育・学習活動だけではなく、地域に入り込んだ交流の必要性とその実践が移動大学に参加した体験から感じ取れるからであろう。

今回を含め4年間、本学教育研究支援資金の助成により移動大学を行ってきた。移動大学を開催することによって、地域貢献を行うこと等の目的は十分に果たせたと考えている。島嶼県ゆえの遠隔地で行われ、さらに沖縄県立芸術大学として

表15 沖縄県立芸術大学移動大学 IN たらま 受講者集計表

1. 事前申込

No	講座名	日 程				定 員	申込人数	受講者数
1	三線教室	A				10名	10名	11名
2	三線教室		B			10名	11名	10名
3	三線教室			C		10名	7名	6名
4	三線教室				D	10名	10名	9名
5	琉球舞踊教室	A				10名	6名	11名
6	琉球舞踊教室		B			10名	6名	8名
7	琉球舞踊教室			C		10名	10名	10名
8	絵画教室 ~宝物をつくろう~	A				10名	13名	12名
9	絵画教室 ~宝物をつくろう~			C		10名	13名	14名
10	絵画教室 ~宝物をつくろう~				E	10名	13名	13名
11	織遊び教室	A	B			10名	10名	15名
12	織遊び教室			D	E	10名	10名	19名
13	粘土アニメ教室	A	B			9名 (3名1組で3組)	10名	8名
14	粘土アニメ教室			D	E	9名 (3名1組で3組)	12名	12名
15	沖縄の笛教室		B			10名	10名	12名
16	沖縄の笛教室			C		10名	10名	10名
17	沖縄の笛教室				E	10名	10名	8名
合計						168名	171名	188名

2. 当日受付

18	おきなわ教室			C		50名	当日受付	40名
19	おきなわ教室				D	50名	当日受付	31名
20	絵画教室 ~宝物をつくろう~				D	追加教室	追加教室	5名
多良間村伝統芸能 琉球芸能公演						11/17 (土) 18:30~21:00		211名
合計								287名

移動大学 参加者計 ( + )	475名
-----------------	------

の特徴を生かした体験型の移動大学は、当初考えていた地域貢献以外に、学内の教職員がそれぞれの境界をこえて交流できる場であり、移動大学を通して、沖縄県立芸術大学教員としての一体感を感じ取られること。参加学生にとっては、小中学生をはじめとした県民および普段接しない教員と専門だけではない交流のできる場であることなど、想像以上の成果のあることが認識できた。

本学教育研究支援資金の助成を4年間継続して受けた研究プロジェクトとして、本学の移動大学の有用性が確認され、そのプロトタイプが完成したと考えている。今後の課題としては、継続して移動大学を行うための資金をいかに確保するか、





写真17 第5回三線教室



写真18 第5回絵画教室



写真19 第5回琉球舞踊教室



写真20 第5回沖縄の笛教室

琉球芸能専攻以外の学生の参加、地域文化の活性化に長期的にいかに関われるか等があげられる。

## おわりに

本稿で報告してきた全5回にわたる移動大学の実施により、本大学の地域貢献のあるべき姿について、かなり具体的なイメージを提示することができた我自負している。またそれだけでなく、本大学の学生や大学院生が県内各地域に出かけ、移動大学に参加した地元の人々と教え=教えられる関係をもつ、あるいは制作やレッスンの場を共有することによって、広く深い交流を繰り広げることができた。それが、大学内のカリキュラムから得られる成果とはまた異なる、大きな教育的効果をあげることも実証できたと考えている。今後は、沖縄という地域に根ざす大学として、高等・専門教育と生涯教育のセンターとしての機能を統合してゆく

ことが一層求められるだろう。

第1～5回の移動大学の実施については、学内の競争的研究資金や外部資金の援助のもとに展開してきた。平成25年度からは、移動大学実施の予算が学内的に認められ、本学における正規の事業として位置づけられることとなった。本大学の中長期的なあり方を考える上で、重要な一歩を踏み出したということを最後に記しておきたい。

## 注

- 1 詳細は、『平成21年度沖縄県立芸術大学教育研究支援資金 移動大学の実施に関する実践的研究 報告書』参照。
- 2 詳細は、『平成22年度沖縄県立芸術大学教育研究支援資金 移動大学の実施に関する実践的研究 報告書』参照。
- 3 詳細は、『平成23年度 移動大学の実施に関する発展的研究 報告書』参照。
- 4 詳細は、『平成24年度沖縄県立芸術大学教育研究支援資金 沖縄県立芸術大学移動大学 in たらま』参照。

## 参考文献

- 『平成21年度沖縄県立芸術大学教育研究支援資金 移動大学の実施に関する実践的研究 報告書』沖縄県立芸術大学附属研究所、2010年2月28日。
- 『平成22年度沖縄県立芸術大学教育研究支援資金 移動大学の実施に関する実践的研究 報告書』沖縄県立芸術大学附属研究所、2011年2月28日。
- 『平成23年度 移動大学の実施に関する発展的研究 報告書』沖縄県立芸術大学附属研究所、2012年3月31日。
- 『平成24年度沖縄県立芸術大学教育研究支援資金 沖縄県立芸術大学移動大学 in たらま』沖縄県立芸術大学附属研究所、2013年2月28日。